

琵琶湖ヨット倶楽部週報(10-7-14 号)

(1) 同志社對阪大のレース

七月七日、豪雨以來久振りの快晴で、気持のよい天気であつたが、生憎と風が弱く0.5—1m位。其の中で阪大と同志社との十艇かスタートを切つた。結果は同志社が勝つたのであるが、勝敗を超越して茲に第一回(白今定期レースとなる)戦を霧ヶ裡に終了した事は慶賀に堪へない。常に十二吹艇には強過ぎるかと思ふやうな風が吹く両宮で練習してゐる阪大軍には鏡のやうな今日の琵琶湖での帆走は極めて不得手であらう。然し帆走は、色々な場合がある。無風状態では根元比へするの七帆走の一部である。阪大軍が何の不平もなく愉快に帆走し艇の片付けを私達と一緒にやつて下さつた事を感謝し敬服する。阪大の人々の心がこもつたメロに成るであらうと信じます。

(2) 新艇庫

屋根が全部張北米した。但し板瓦けいスレートのお付けは未だであるが久振りに仰ぐ艇庫の屋根です。周囲の板張りも出来ました。同志社、ヨット修練、阪大の人々の手を招はして全フリートが屋根の下に納まりました。坪に二百九十坪であります。

艇曰く“寒い雪や霰の降る時節に露天で暑くなつてから家の中へ入水された。何だか及村のやうだ。然し俺達は真夏の処、真夏の炎天ぼしか嫌なんな、ヒドク夏やせするから、特に暗嵐、暗潮、パイオニア氏は夏やせかヒドイから”

(3) 竣工式

二十一日に竣工式をする為定めておりましたが、都合で二十八日に延期致し奉。

(4) 會員総會

十四日午後六時から上田理事の両宅の會議室を拜借して會員総會を開きますから懇話会として(蒸気セーリングに出席しなくとも)出席をお願いします。會議の主要題目は竣工式に際して行ふべき事項の打合せです。

あります。夕食を共にしたいと思えますから会費金30銭(多松銭)而持参の
高規均の一部改訂の必要ありや否しやの再吟味、名譽会員、顧問などの
推薦、神戸高等商船端支部員を招待の件、關係コト俱樂部への通
知(同窓見舞の而礼状を兼ねて)の件、新入会員の件、大津市長、大津商
工会議所会頭、副会頭-謝意を表する為の記念品呈上の件、琵琶湖
協会の資金借入に關する件、柳川向側の官有地借入の件、等々
を相談して決めたいと思つてみます。

(5) 本年のカップレース

昨年の優勝盃而持歸りの方は十四日の日曜日に市返還下さい。

市當日市執にならぬ方は最寄りの方に市托し下さい。

本年はは大約先の場合にカップレースを行います。

七月廿一日	安田盃レース
七月廿八日	大毎盃レース(オープン)(竣工式)
八月四日(又-廿五日)	琵琶湖盃レース(オープン)
八月十八日	上田盃レース
九月一日	安盛盃レース
九月十五日	テリ-盃レース(オープン)
九月廿二日	琵琶湖對同志社(國際盃)

琵琶湖クラブ、同志社クラブ、第大クラブ、コト修練(阪大)

關のリーグレースは關係者協濟の上上記のオープン以外
日を逃んど舉行す。

(6) オリンピ-多海選第本年は全日本十二呎艇選手権レース

来る八月十、十一、十二の三日間名古屋に於て舉行される。琵琶湖
及び阪湾の代表として吉本善多、木村孝雄の両氏の出場が
下になってゐます。東京、名古屋、横浜、博多の各地から選り抜きの
選手が揃つてこのレースで、實に兎榮えのあるものと期待致し
ます。而部會のつく限り應援と見學とに而出かけの程申願致し
ます。選手諸君而自愛を。